

ただいま入学を許可されました高等学校510名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご入学心よりお祝い申し上げます。

少子化の折、私立・公立とも入学定員を充足しない学校が多い中、午前に行われた中等部の新入生162名を加え中高合わせて672名という定員を大きく超えた過去最高の入学者数を得て、今年度をスタートすることができました。

この7年間「変わる!静岡翔洋」「夢中って無敵」というスローガンを掲げて、本校の新しい教育方針、教育内容を県内外に広く訴えてまいりました。この入学者の数は、私達にとって、大変勇気づけられることであり、大きな自信となります。本校を選んで頂いた皆さんに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、新入生の皆さん。今、1000日の学校生活のスタートの合図が鳴りました。ゴールは当然はるか遠くにあり、まだ見えるはずもありません。皆さんが来校されたオープンキャンパスや学校説明会で言った私の言葉を覚えているでしょうか。「頭にも、心にも、体にも汗をかく青春」を送ってほしい。「ゆとりはいらない、忙しいくらいの毎日、青春って忙しいんだ」と実感できる日々を静岡翔洋で送ってほしい」と皆さんにお話ししました。

学校は社会の一部ですが、社会の縮図になってはいけません。あくまでも学校は純粹な場所であるべきです。つまり、何のためらいもなく、誰に遠慮するわけでもなく夢や希望に向かってひたすら突き進むことができる場所であるべきなのです。それが許される場所、それが学校なのだと私は思います。

たわいもない日々のできごと、何気ない日常、家族のこと、将来のことを友と語り合うのもよし。自分とは何なのか、生きる意味とは何かを追求して、本を読み漁り悩むのも、人を好きになって眠れない夜を過ごすのも、部活動に打ち込み、グラウンドで汗と涙を一緒に流すのも青春です。

たくさんの青春の汗を流しながらかけがえのない日々を送り、夢や希望を追い続けてください。

そして同時に重要なものは教養です。一定の国語力、計算能力、文学や歴史、地理、自然科学に関する知識など皆さんが生きていく上での力となるものを身に着けていくことが求められます。この中核の部分を忘れることなく3年間走り続けてください。

スタートの合図は鳴りました。皆さんには平等のチャンスと時間が与えられたのです。しかし、結果の平等までは求めてはいけません。

1000日のコースと距離をどう歩くかは皆さん一人ひとりの意志と選択によります。

私たち教職員は皆さんを応援します。寄り添うこともあれば、時には壁となって立ちふさがることもあるでしょう。

乗り越えてください。自分にあるもの、備わっているものすべてを駆使し、使い切って、前へ進んでください。人生は選択の連続です。自分の責任と自覚のもとで選び取り、決断し実行してください。そしてより良い形で、自分が納得できる、満足できる1000日後のゴールのテープを切ってほしいと思います。

世界は今未曾有の危機の中にあります。新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、いまだに出口が見えない状況です。しかし、過去においても人類はさまざまな脅威や困難、見えない恐怖に遭遇してきました。そして、そのたびごとに、人々は知恵を出し合い、工夫し、研究して多くの不幸や苦しみ、悲劇を克服してきたのです。今回も我々の目の前に立ちはだかっている脅威に敢然と立ち向かい、必ず克服し、前進して行くものと信じます。

地球は大きく広い、しかし、地球は小さく狭くなってきています。それをコロナウィルスは教えてくれました。ある国の一都市で発生したといわれるコロナウィルスはわずか数ヶ月で世界中を席卷し各国をパニックに陥れました。グローバリズムとは何か。それは、人やモノ、お金、情報が国境を越えて自由に行き来することであり、世界は相互依

存の中で生きているということです。今後、益々相互依存は深まり、日本だけで生きていける時代ではなくなります。そんな新たな時代を皆さんは生き抜いていかなければならないのだということをどうぞ自覚し、認識して学生生活をスタートさせてください。

満開の桜の下、碧く光る太平洋と秀麗富士がみなさんの門出をお祝いしています。1000日のドラマは今、スタートしました。汗かく青春、青春って忙しい、夢中って無敵。約束された1000日の日々をかけがえのない青春の日々を悔いなく駆け抜けてほしい。私はそう願っています。

素晴らしい学校生活となることを、祈念いたしまして、高等学校第23回入学式の「告辞」といたします。入学おめでとう。